
言語研究センター共同研究

『良友』画報と都市研究

孫 安 石

本共同研究は1926年～1945年の間、上海で発行された『良友』画報の多様な内容を、専門領域を超えた学際的な視点からとらえ直すことを目指すものである。上海で発行された『良友』画報に関する研究成果としては、1930年代に同雑誌の編集を担当した馬国亮が出版した『良友懐旧』（2002年、三聯書店）が最新の先行研究である。しかし、中国以外の国ではまだこの画報を全面的に分析した研究は発表されていない。

1926年に創刊された同雑誌は、中国の政治、経済、社会、文化はもちろん、文学、広告、漫画などあらゆる分野を網羅している。とくに、この画報が創刊された1920年代はアジアで大衆消費社会とも言うべき社会現象が幅広く見られた時期で、映画や百貨店などが登場する時期とも重なる。本共同研究はこの『良友』画報を精読する輪読会を

続けながら、2004年8月にはワークショップ「『良友』画報と上海」（上海）を開催し、2007年9月には雑誌『アジア遊学』に『良友』を取り上げた特集号（勉誠出版）を出版することができた。2010年1月には菊池敏夫「上海の百貨店業界と近代中国」（臨時研究会）を開き、8月には上海市檔案館、上海市図書館などを訪れ、『良友』画報関連の資料調査を行うことができた。

本年度は本学の非文字資料研究センターの租界班と共同で「中国のたばこ産業とカレンダー印刷」に関連する研究会（2011年7月22日）を開き、2012年2月には上海師範大学の城市文化研究所と今後の研究活動について意見調整する計画である。来年度は、上海現地でワークショップを開催するほか、言語センターの叢書刊行に向けて研究活動のさらなる活性化を期したい。
